

## 編集後記

機関誌「医療経済研究」第15号が発刊の運びとなった。編集委員、レフェリーほか関係者の皆様に多大なご協力をいただき、改めて御礼申し上げます。

今回、編集委員会の最終決定により採用となった論文は、次の2本である。

「投薬期間の規制緩和による患者サービス及び医療経営への影響」（恩田光子氏他）については、2002年4月に原則廃止された外来患者の薬剤投与期間に係る規制の影響について、病院と診療所の現状と今後の外来投薬のあり方を分析した論文である。

また、「社会的入院の定量的把握と費用推計」（畑農鋭矢氏）については、社会的入院の量的把握及び費用推計を行うとともに、介護サービス価格を把握し、医療サービス価格との比較を通じて、削減可能な社会的入院の費用額を推計し、分析している。

いずれも編集委員会およびレフェリーによる厳しい審査をクリアーした論文であるだけに、実証的であり、政策研究論文として高く評価できる労作である。

また、研究ノートとして掲載を決定した「医療サービスと予防行動に関する研究サーベイ - 予防政策評価のための一試論 -」（澤野孝一朗氏他）は、予防行動と医療サービスに関する先行研究を利用して、これまでの研究から明らかになっている点と、今後に残された課題について明らかにした論文である。

編集事務局としては、本機関誌が医療政策議論の参考文献としてお役に立ち、医療サービスの更なる向上と医療政策の発展に寄与できるよう願っている。今後とも各方面のご支援、ご指導を切にお願い申し上げたい。

（編集事務局代表・医療経済研究機構 専務理事 岡部 陽二）